

市民、中・高・大学生アンケートの実施結果

1. アンケート実施概要
2. 市民アンケート（設問別集計結果）
3. 市民アンケート（重要度・満足度）
4. 学生間比較アンケート

1. アンケート実施概要

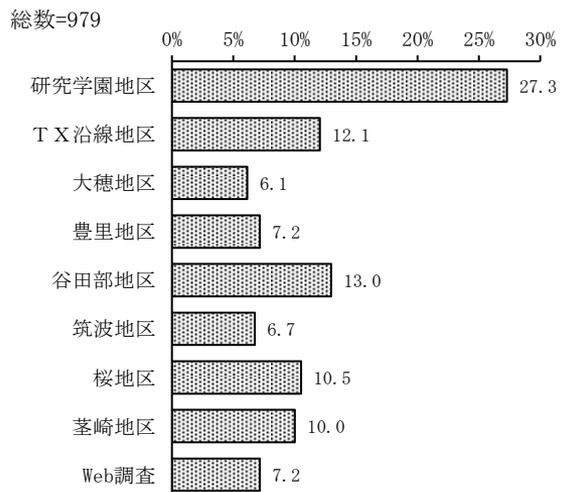
市民・学生（中学生、高校生、大学生）アンケート実施概要

項目	市民	中学生	高校生	大学生
目的	未来構想の改定にあたり、市に対する現状評価や施策要望等を把握する。 また、個人や市の未来に対する希望やイメージ等を抽出する。	中学生意識調査の目的は、市民意識調査の目的に加え、移住・定住に関する検討材料とする。	高校生意識調査の目的は、市民意識調査の目的に加え、移住・定住に関する検討材料とする。	大学生意識調査の目的は、市民意識調査の目的に加え、移住・定住に関する検討材料とする。
対象	市民・18歳以上人口（無作為抽出）8地区均等配布	中学校在学の2年時生（市内19校） ・つくば市立16校 ・県立並木中等教育学校 ・県立つくば特別支援学校 ・茗溪学園中学校高等学校から各校1クラスずつ	高校在学の2年時生（市内9校） ・県立竹園高等学校 ・県立筑波高等学校 ・県立つくば工科高等学校 ・県立荃崎高等学校 ・県立並木中等教育学校 ・県立つくば特別支援学校 ・茗溪学園中学校高等学校 ・つくば秀英高等学校 ・つくば松実高等学校	大学在学の全学年（市内3校） ・筑波大学 ・筑波技術大学 ・筑波学院大学
方法	郵送配布・郵送回収、希望者はWeb回答も可とする	校長連絡会議で依頼の上、市立中学校は庁内メール便で配布・回収。他3校は直接持込・回収。	校長連絡会議で依頼の上、各校に配布し、ホームルーム等で実施の上、市職員が各校を訪問して回収	大学のメーリングリスト、掲示板等で周知の上、Webで回答
配布数	2,000	760	1,350	—
回収数	979	569	1,235	268
回収率	49.0%	74.9%	91.5%	—
期間	平成30年11月19日（月）～12月3日（月）	平成30年11月26日（月）から2週間程度	平成30年11月19日（月）から2週間程度	平成30年11月15日（木）から2週間程度

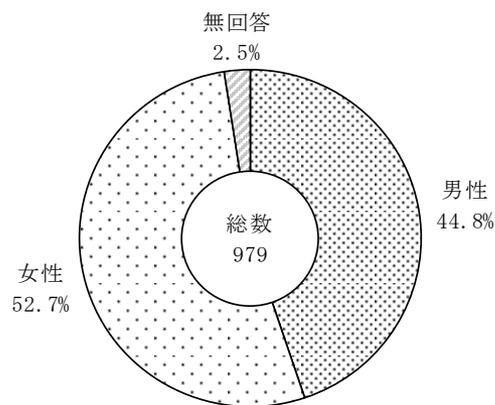
2. 市民アンケート（設問別集計結果）

地区・性別・年齢・居住年数・家族構成（問1-1～1-4）

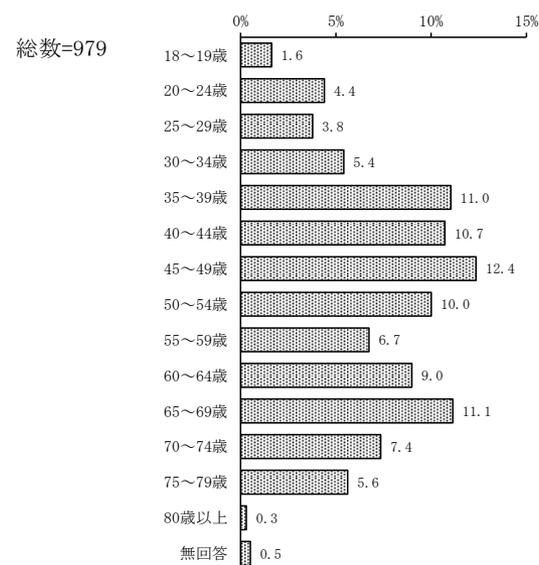
居住地区



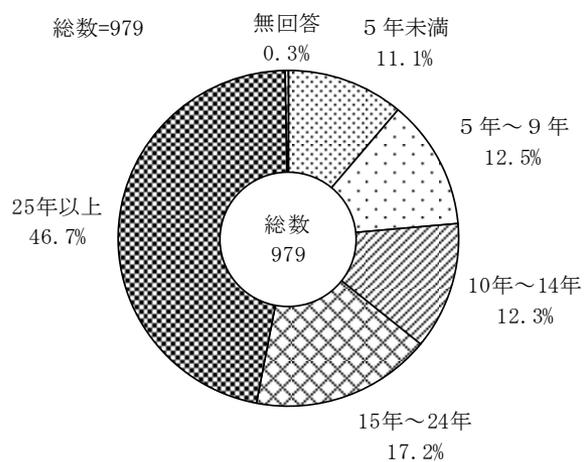
性別



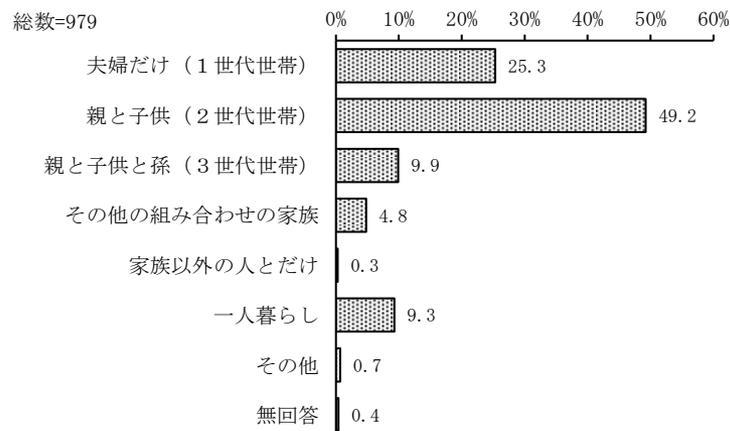
年齢



居住年数



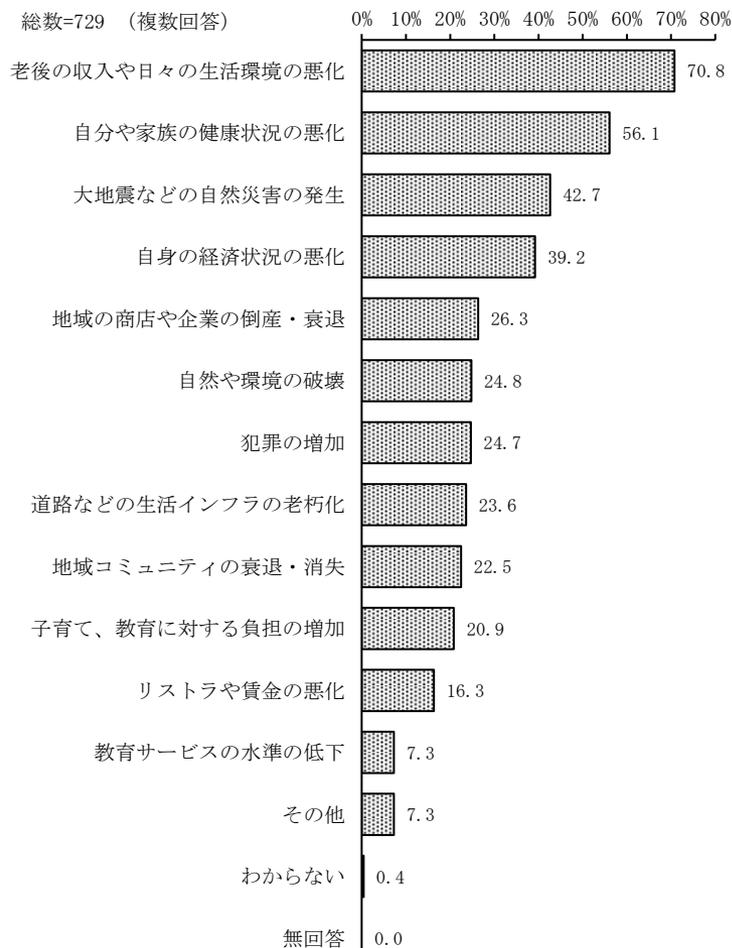
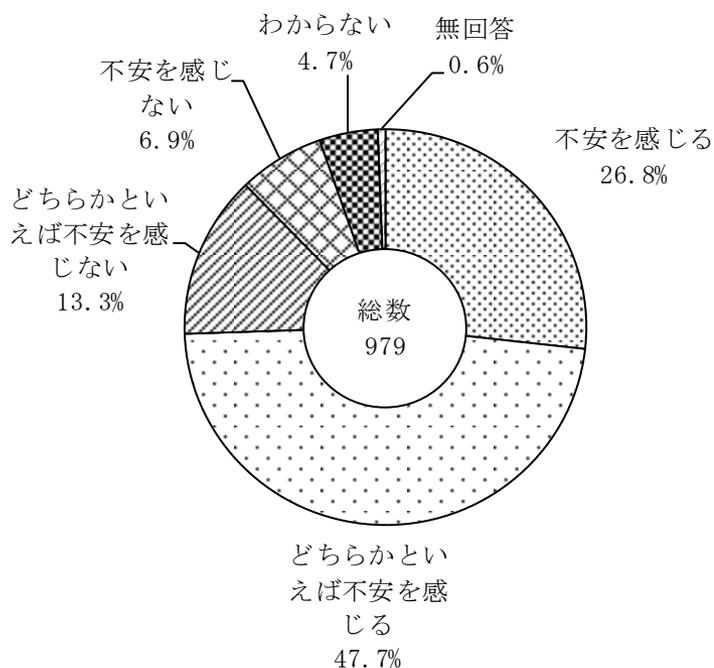
家族構成



2. 市民アンケート（設問別集計結果）

① 未来に対する意識・未来に不安を感じる理由（問2-1・2-2）

- 「不安を感じる」が26.5%、「どちらかといえば不安を感じる」が47.7%で合わせて74.2%となり、多数の方が不安を感じていることが分かる。
- 「老後の収入や日々の生活環境の悪化」が70.8%、「自分や家族の健康状況の悪化」が56.1%となるなど、自分や家族に関する不安が最も多くなっている。
- 「大地震などの自然災害の発生」が42.7%、「自身の経済状況の悪化」が39.2%と続いており、将来の予測が難しいことに関して強い不安を感じていることが分かる

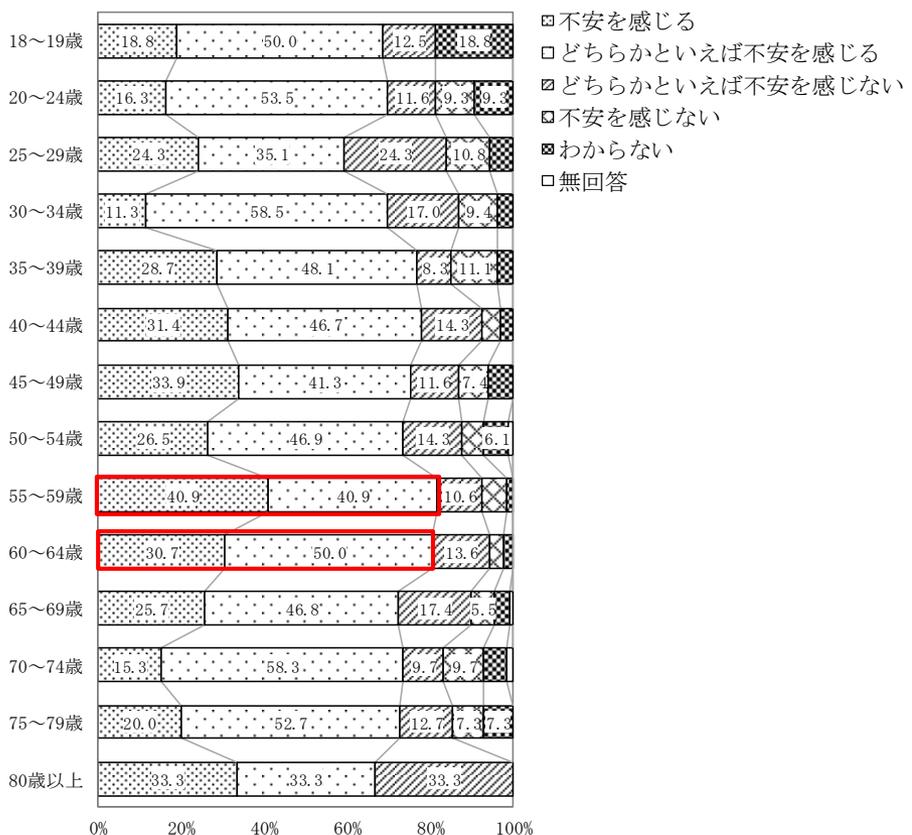


2. 市民アンケート（設問別集計結果）

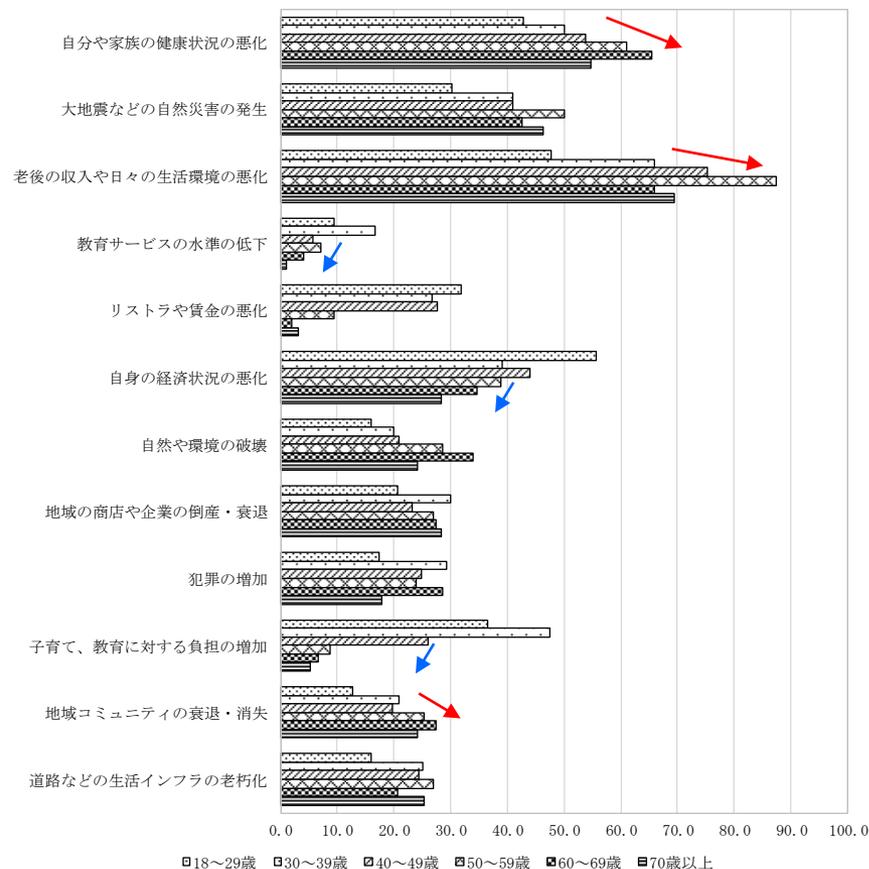
①自分の未来に対する不安感とその理由（問2-1・2-2）

- 自分の未来に対する不安は、高齢者が多いほど、不安感が強い傾向がある。年齢別では、特に50歳代、60歳代で不安感が強く、30歳未満の世代で低い結果となった。
- 加齢とともに不安感が増すのは、「老後の収入」「健康状況の悪化」「地域コミュニティの衰退」で、若い世代ほど不安感が強いのは、「自身の経済状況の悪化」「子育て・教育に対する負担の増加」「教育サービスの低下」である。

* 年代別の自分の未来に対する不安



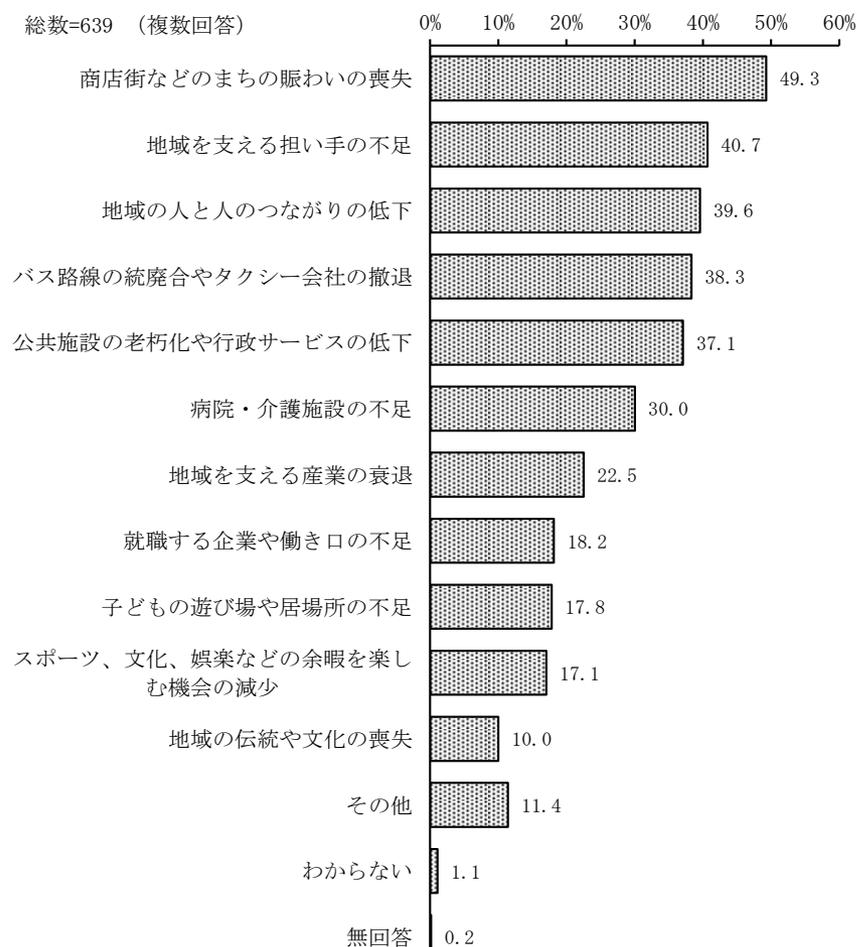
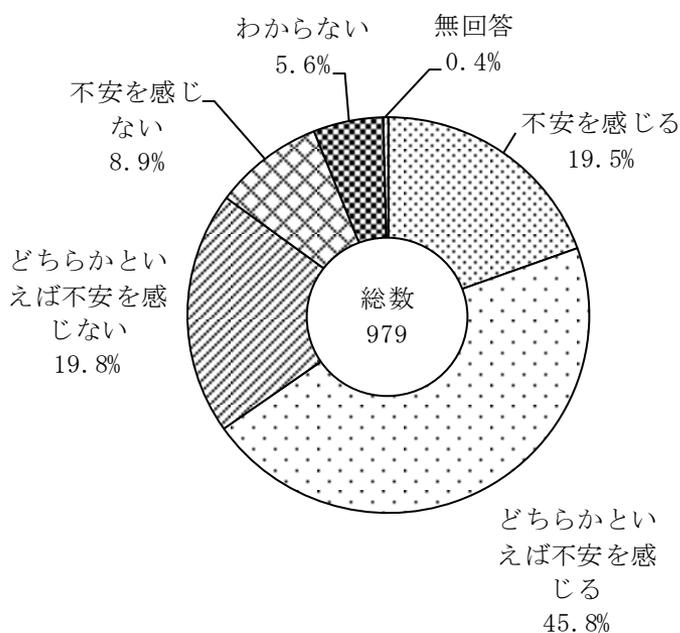
* 年代別の自分の未来に対する不安要素



2. 市民アンケート（設問別集計結果）

②地域の未来に対する意識・地域の未来に不安を感じる理由（問2-3・2-4）

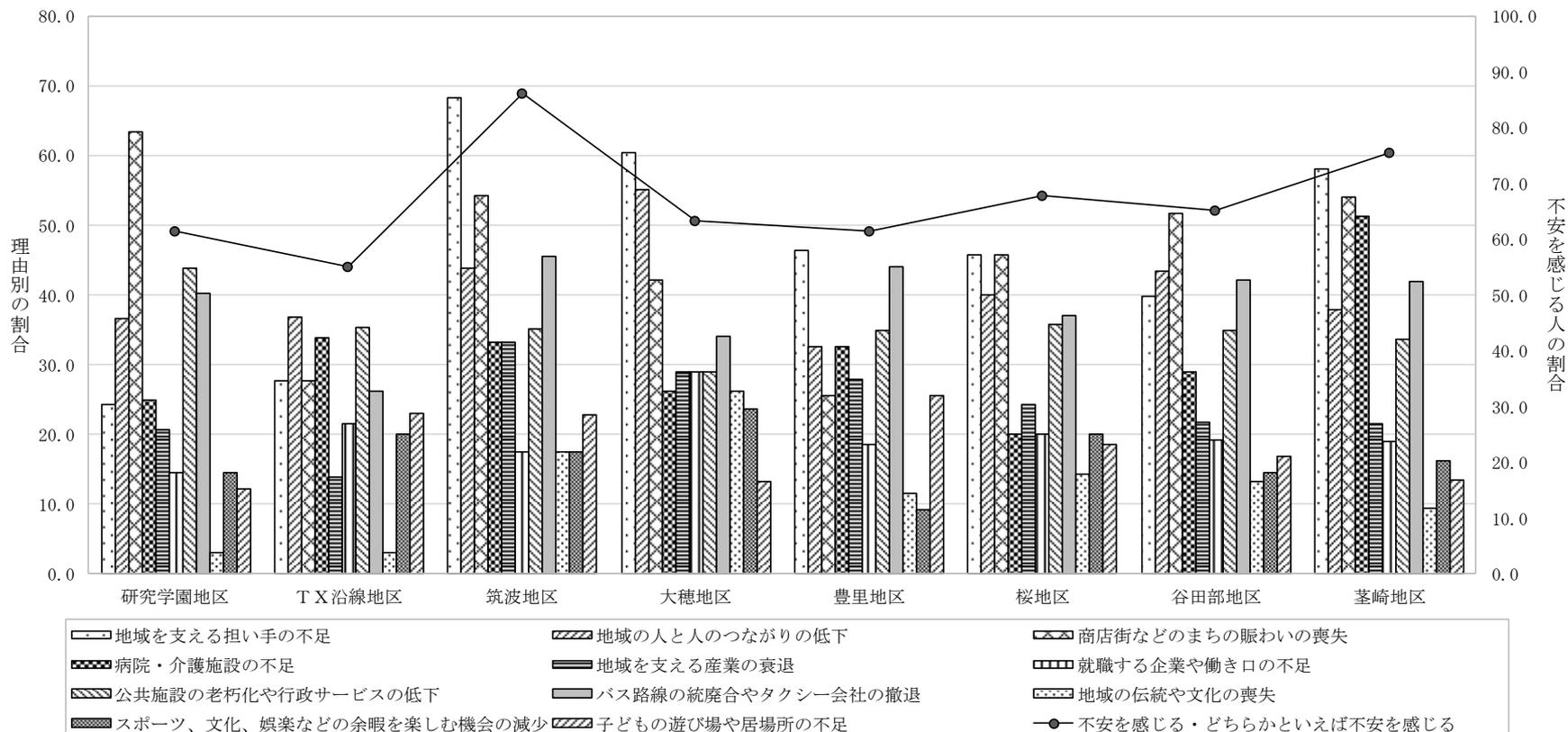
- 「不安を感じる」が19.5%、「どちらかといえば不安を感じる」が45.8%で合わせて65.3%となり、問2-2と同様に多数の方が不安を感じていることが分かる。
- 「商店街などのまちの賑わいの喪失」が49.3%、「バス路線の統廃合やタクシー会社の撤退」が40.7%となるなど、個人の経済活動と直結する項目について不安が強いことが分かる。
- 「地域を支える担い手の不足」が39.6%、「地域の人と人のつながりの低下」が38.3%となり、地域の活動やつながりの希薄化に関する不安が続いている。



2. 市民アンケート（設問別集計結果）

②地域の未来に対する不安感とその理由（問2-3・2-4）

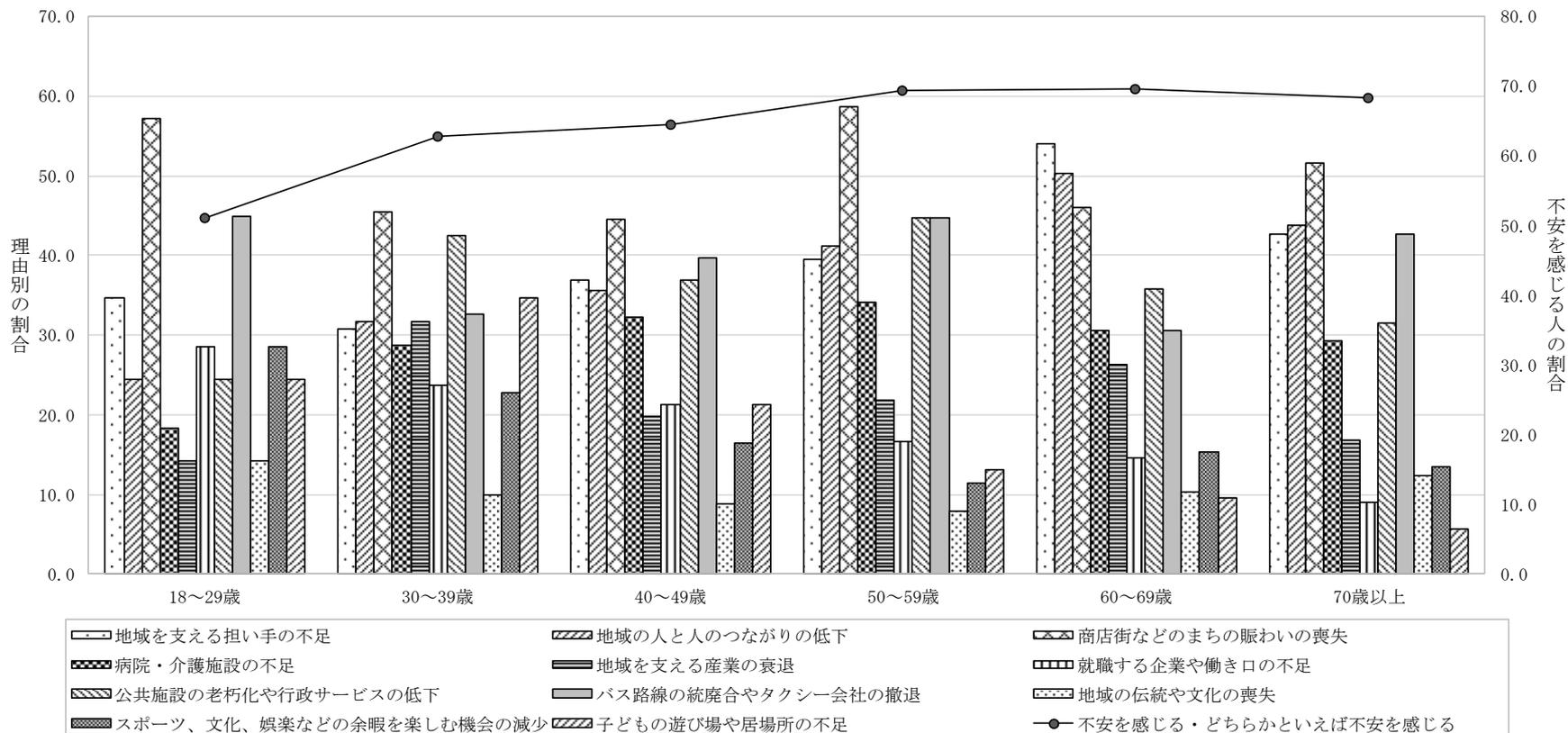
- 地域の未来に対する不安を地区別にみると、「筑波地区」、「荃崎地区」で高い傾向にある。その理由としては、「地域を支える担い手不足」、「商店街などのまちのにぎわいの創出」などが挙げられている。これは、各地区との年齢と関係しており、高齢者が多いほど、不安感が強いことが影響している。
- 「研究学園地区」「TX沿線地区」は、他の地区に比べて不安を感じる人の割合が低く、特に、「地域を支える担い手の不足」を理由に挙げる人の割合が、他地区に比べて低い。
- 「研究学園地区」では、「商店街などのまちの賑わいの喪失」を理由に挙げる人の割合が高く、研究学園都市の概成とともに整備された商店街の老朽化について、不安を感じる人の割合を高めている要因になっていることが推察される。



2. 市民アンケート（設問別集計結果）

②地域の未来に対する不安感とその理由（問2-3・2-4）

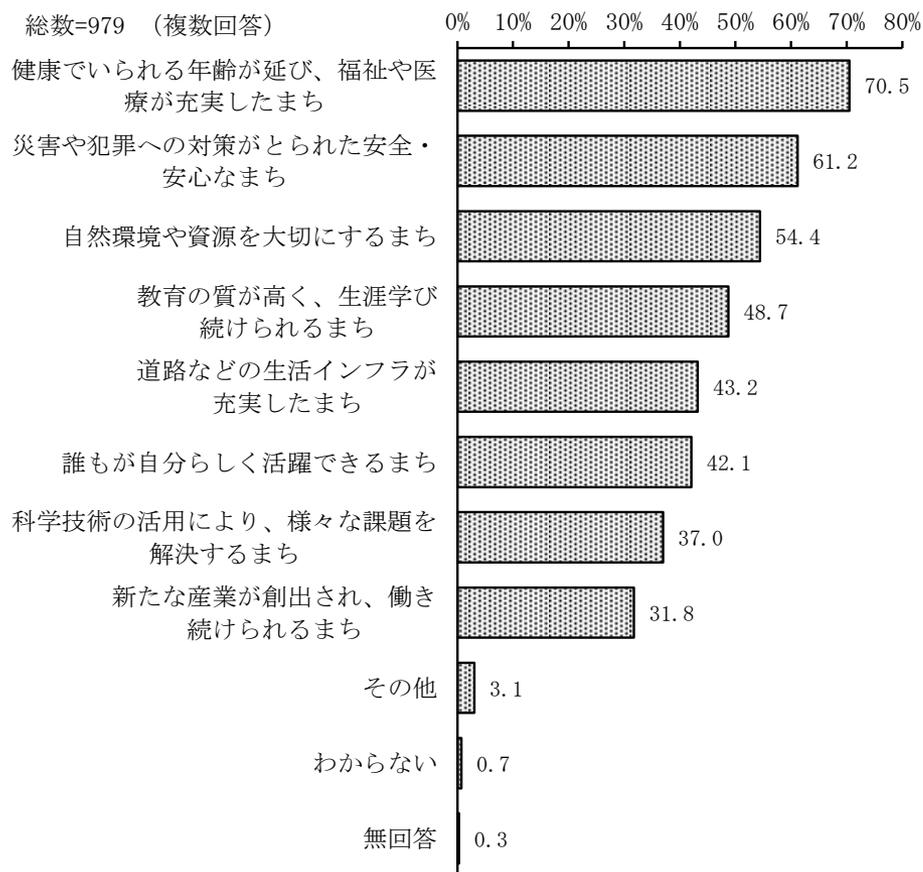
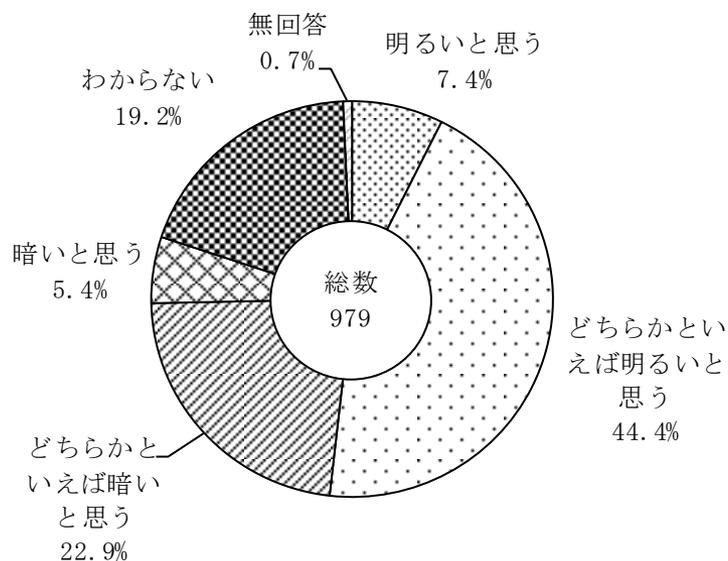
- 年齢と共に不安を感じる人の割合は高まっているものの、その理由は、年代により異なっている。
- 「地域の人と人のつながりの低下」を回答した型は、年代が上がるにつれて増加傾向にあり、地域社会とのつながりやコミュニティの形成に関する懸念があることが分かる。
- また、どの世代でも「バス路線の統廃合やタクシー会社の撤退」を回答しており、市内の公共交通に関する課題が明確化されている。
- 30歳未満は「商店街などの賑わいの喪失」や「就職する企業や働き口の不足」を挙げている一方、60歳以上では、「地域を支える担い手の不足」を挙げている方が特に多い。



2. 市民アンケート（設問別集計結果）

③つくば市の未来に対する意識・つくば市が目指すべき社会像（問3-1・3-2）

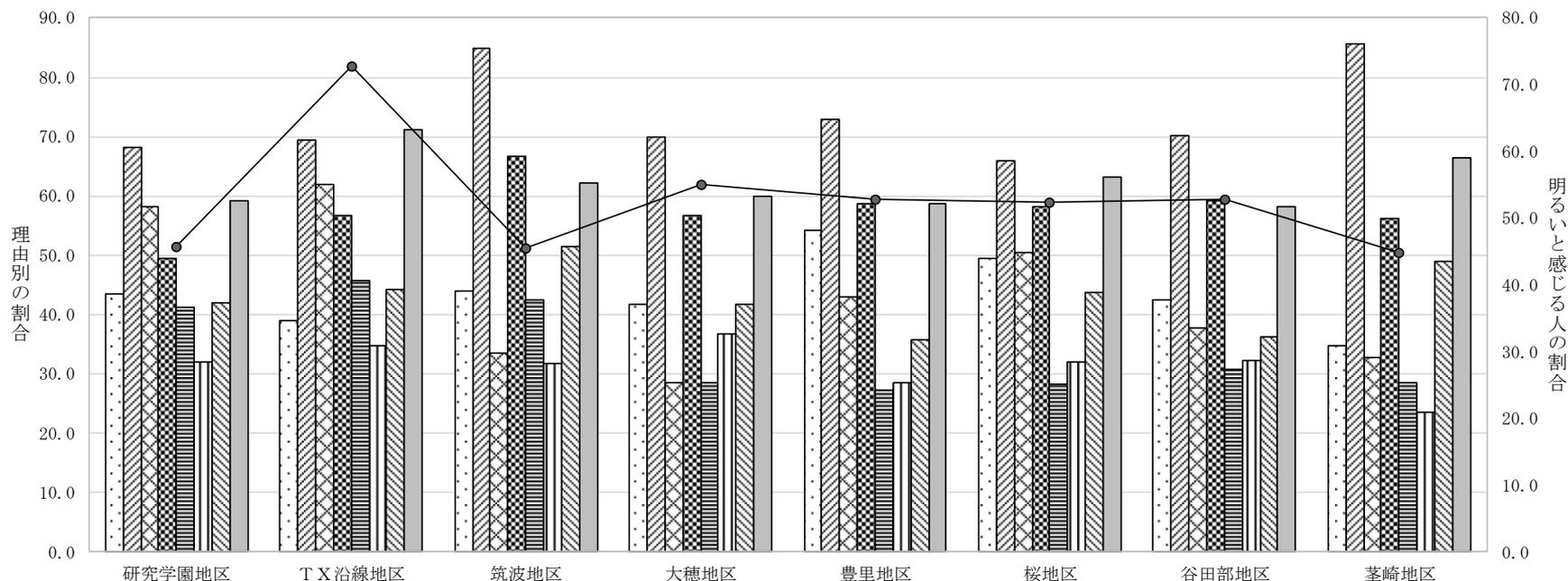
- 「明るいと思う」が7.4%、「どちらかといえば明るいと思う」が44.4%で合わせて51.8%となり、過半数の方が明るいと感じている。
- 「健康でいられる年齢が延び、福祉や医療が充実したまち」が70.5%で最も多く、「災害や犯罪への対策がとられた安全・安心なまち」が61.2%となるなど、個人や地域の不安と関係する項目の社会像において期待が高いことが分かる。
- 続いて、「自然環境や資源を大切にするまち」が54.4%、「教育の質が高く、生涯学び続けられるまち」が48.7%となり、次世代へ環境や人材をつないでいく項目が高いことが分かる。



2. 市民アンケート（設問別集計結果）

③ つくば市の未来の明るさと目指すべき社会像（問3-1・3-2）

- つくば市の未来が明るいと感じた方はTX沿線地区で最も多く約7割の方が回答している。
- 筑波地区、荃崎地区などの平均年齢が高い地区で未来が明るい感じる人の割合が低く、研究学園地区においても同様に、明るいと感じる人の割合が低い結果となった。
- 「健康でいられる年齢が延び、福祉や医療が充実したまち」が全地区で高く、平均年齢が高い筑波・荃崎地区が特に高い。
- 続いて、「災害や犯罪への対策が取られた安全・安心なまち」も全地区で高く、明るい社会と関係が深いことが分かる。

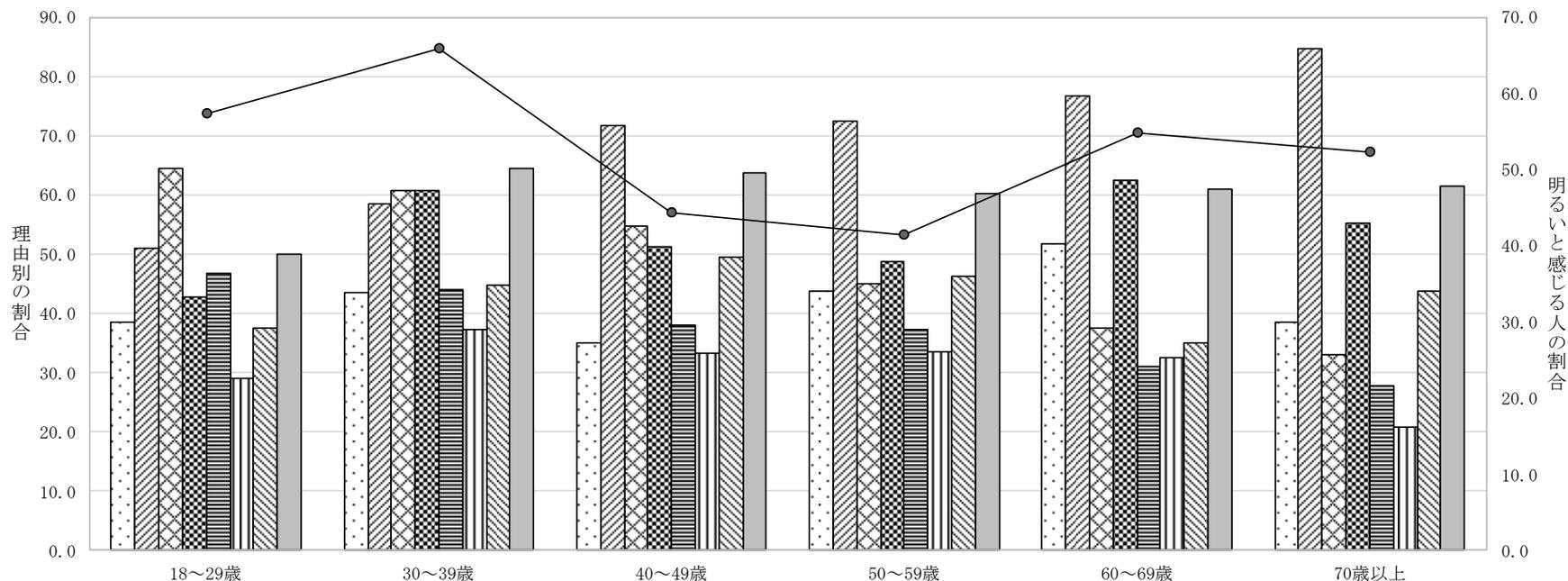


- who can live and work actively in their own way
- health, welfare, and medical care are improved, and the age at which one can live healthily is extended
- high quality of education and lifelong learning
- valuing nature and resources
- using science and technology to solve various problems
- new industries are created and jobs are sustained
- improving life infrastructure such as roads
- a safe and secure town with measures against disasters and crime
- bright or, either way, bright

2. 市民アンケート（設問別集計結果）

③つくば市の未来の明るさと目指すべき社会像（問3-1・3-2）

- つくば市の未来の明るさについては、30歳代で最も高く、次いで、30歳未満の方が高いため、若年層では明るいと感じると答えた方が多い結果となった。逆に、40歳代、50歳代の方々は、明るいと感じる人の割合が半数を下回っており、つくば市の未来を危惧する方が多いことが推察される。
- 目指すべき社会増は、若年層ほど、「教育の質が高く、生涯学び続けられるまち」の回答割合が高く、逆に、年代があがるほど「福祉や医療が充実したまち」と回答した方が多い。
- 40歳代、50歳代では、「生活インフラの充実」や「安全・安心なまち」を目指すべき社会増にあげる方の割合が他の世代よりもわずかに高い。



□ 誰もが自分らしく活躍できるまち

▨ 健康でいられる年齢が延び、福祉や医療が充実したまち

▩ 教育の質が高く、生涯学び続けられるまち

▨ 自然環境や資源を大切にすまち

▨ 科学技術の活用により、様々な課題を解決するまち

▨ 新たな産業が創出され、働き続けられるまち

▨ 道路などの生活インフラが充実したまち

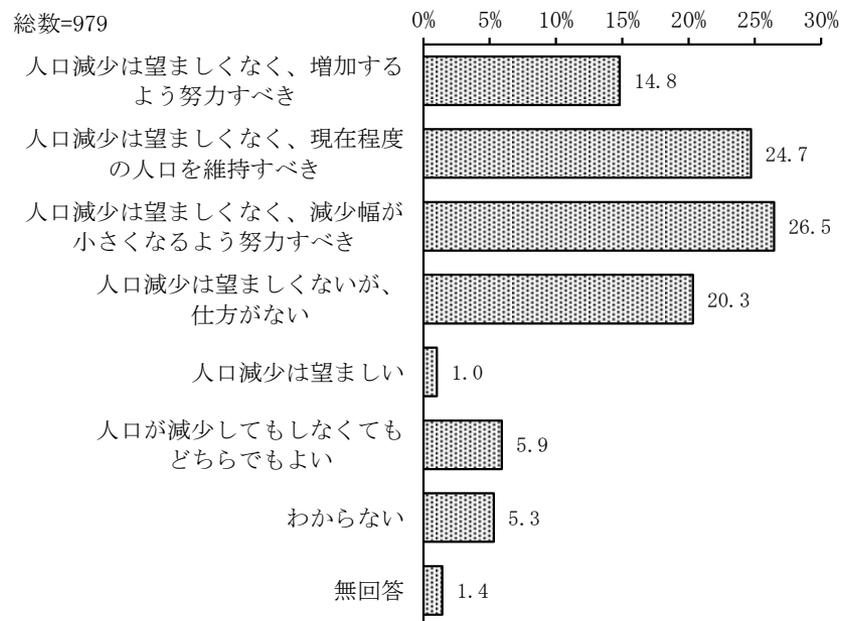
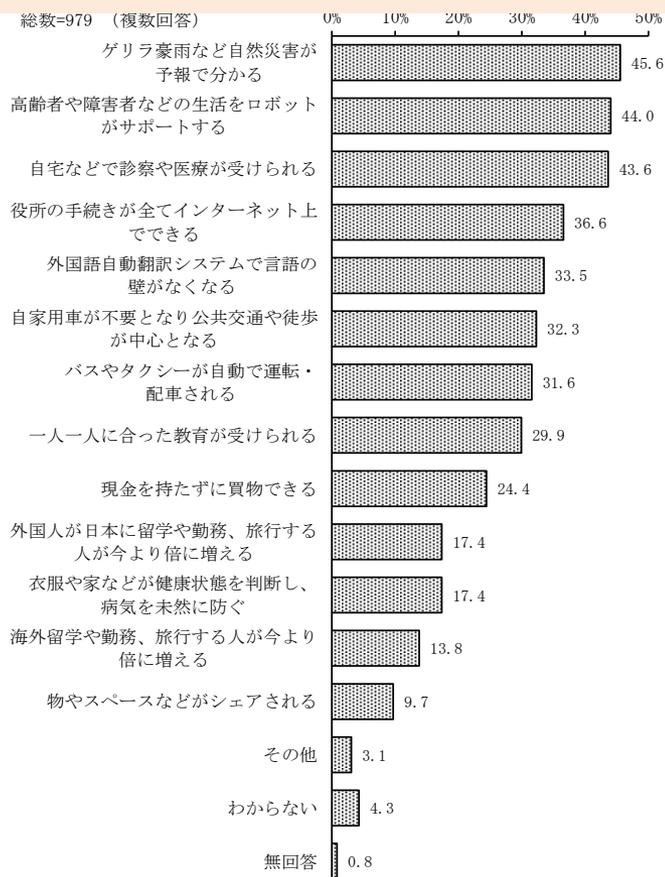
▨ 災害や犯罪への対策がとられた安全・安心なまち

● 明るいと思う・どちらかといえば明るいと思う

2. 市民アンケート（設問別集計結果）

④ 科学技術の発展やグローバル化がもたらす未来像・人口減少に対する意識（問3-3・3-4）

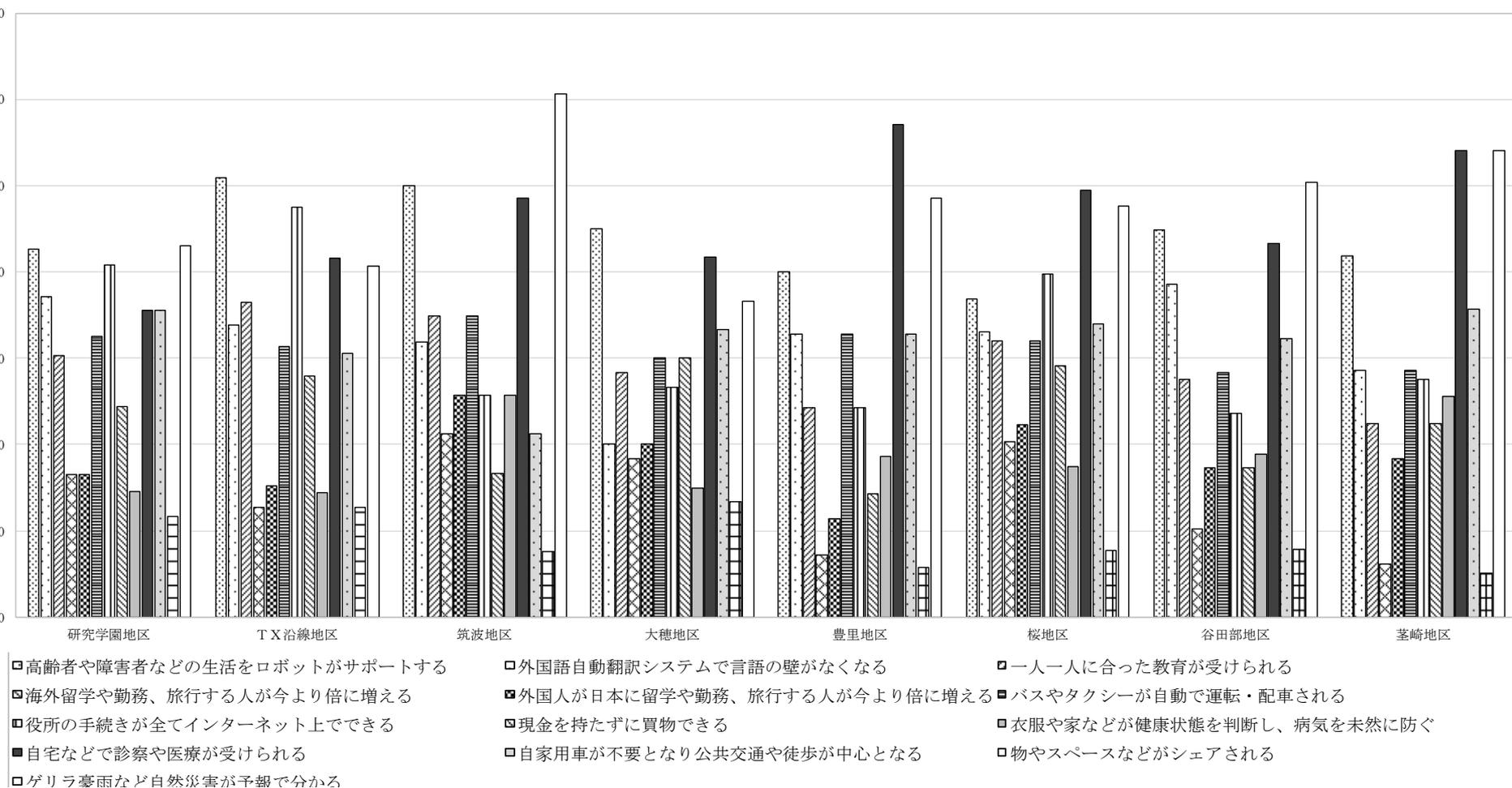
- 「ゲリラ豪雨など自然災害が予報で分かる」が45.5%となり、日常生活においてイメージしやすい項目が最も多くなっている。「自宅などで診察や医療が受けられる」が44.0%、「高齢者や障害者などの生活をロボットがサポートする」が43.5%となり、福祉や健康に関する項目が続いている。
- 「役所の手続きが全てインターネット上でできる」が36.6%となり、手続きのたびに役所を訪れないといけない現状を不便だと感じている方が多いことが分かる。
- 「人口減少は望ましくなく、増加するよう努力すべき」が14.8%、「人口減少は望ましくなく、現在程度の人口を維持すべき」が24.7%、「人口減少は望ましくなく、減少幅が小さくなるよう努力すべき」が26.5%となり、合わせて66.0%の方が人口減少は好ましくなくそうならないよう努力すべきであると考えていることが分かる。



2. 市民アンケート（設問別集計結果）

④ 科学技術やグローバル化がもたらす未来像（問3-3）

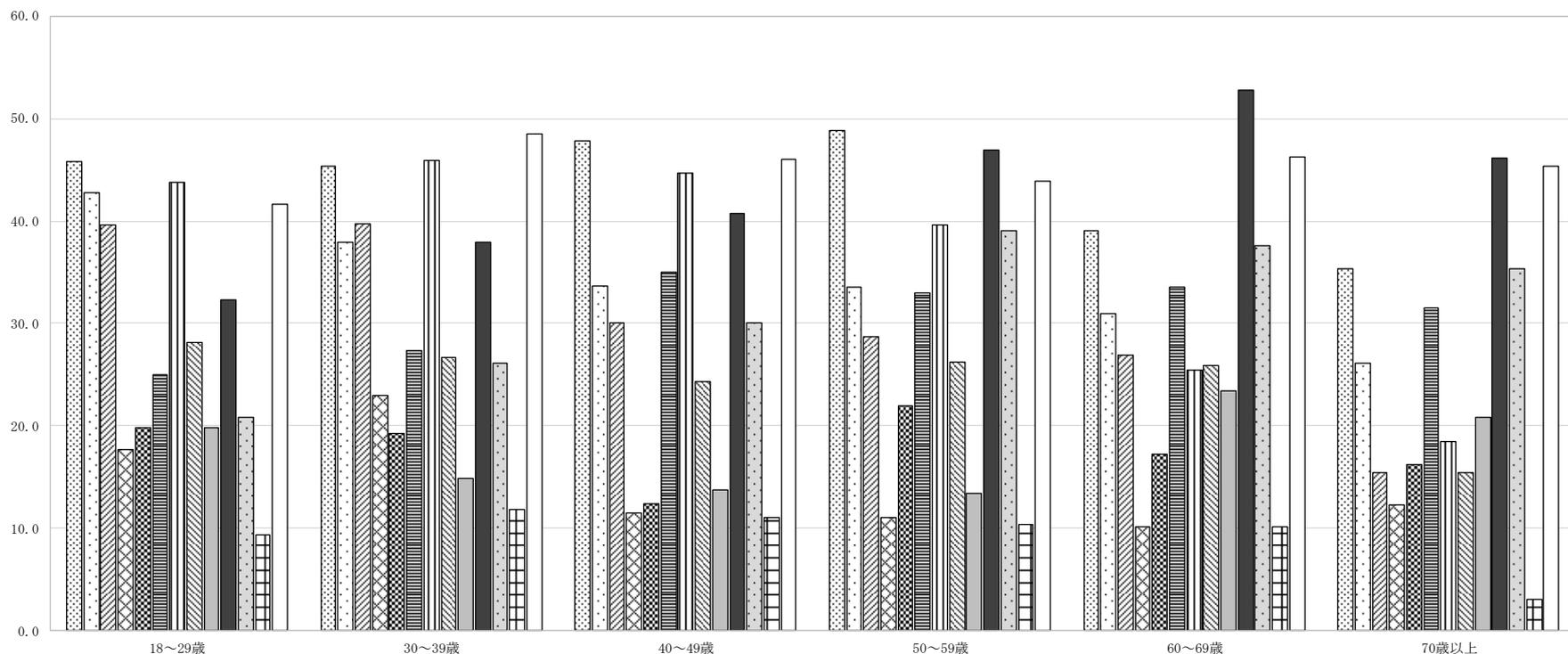
- 科学技術やグローバル化がもたらす未来像については、各地区でばらつきがある。
- TX沿線地区、研究学園地区では、ロボットによる生活サポートへのニーズ、谷田部地区・筑波地区では、災害に対する安心感に対するニーズ、桜地区・豊里地区・荃崎地区では、在宅医療へのニーズが高いことが分かる。
- 研究学園地区、TX沿線地区、桜地区など若い人が多い地区では役所の手続きがインターネット上でできることに関するニーズが高いことが分かる。



2. 市民アンケート（設問別集計結果）

④ 科学技術やグローバル化がもたらす未来像（問3-3）

- 年代別にみると、どの年代でも「自然災害の予報」と回答した方が多く、自然災害への対応に関する関心がうかがえる。
- 60歳未満は、「ロボットによる生活サービス」や「役所の手続きがインターネット上でできる」を回答した方の割合が高く、現在の生活において高いニーズがあるものが、生活サポートや手続きの簡素化であることが分かる。
- 年代があがるにつれて「自宅診療・医療」を応える方が増加している傾向にある。



□ 高齢者や障害者などの生活をロボットがサポートする

□ 海外留学や勤務、旅行する人が今より倍に増える

□ 役所の手続きが全てインターネット上でできる

■ 自宅などで診察や医療が受けられる

□ ゲリラ豪雨など自然災害が予報で分かる

□ 外国語自動翻訳システムで言語の壁がなくなる

■ 外国人が日本に留学や勤務、旅行する人が今より倍に増える

□ 現金を持たずに買物できる

□ 自家用車が不要となり公共交通や徒歩が中心となる

□ 一人一人に合った教育が受けられる

■ バスやタクシーが自動で運転・配車される

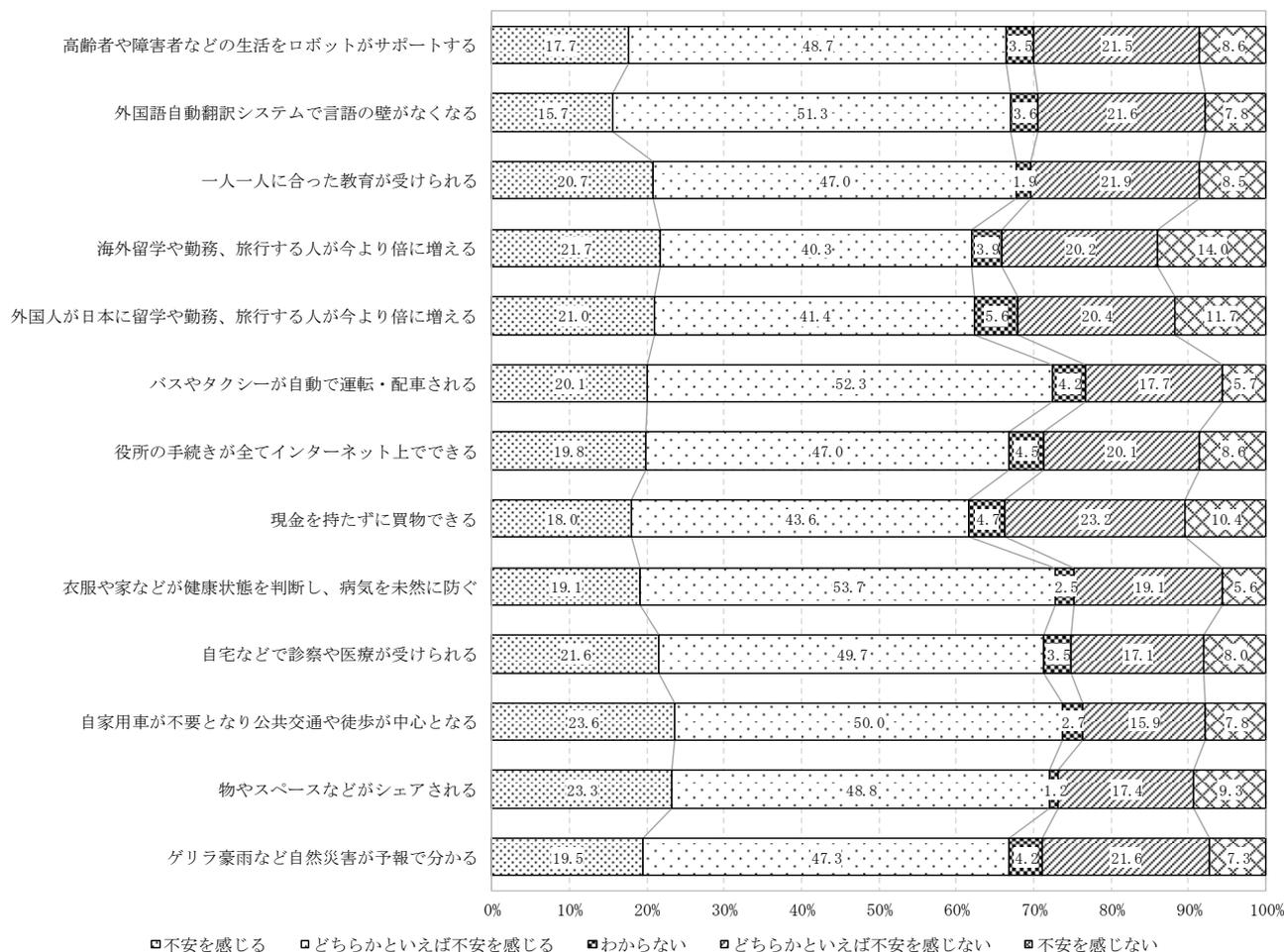
□ 衣服や家などが健康状態を判断し、病気を未然に防ぐ

□ 物やスペースなどがシェアされる

2. 市民アンケート（設問別集計結果）

④ 科学技術やグローバル化がもたらす未来像（問3-3）

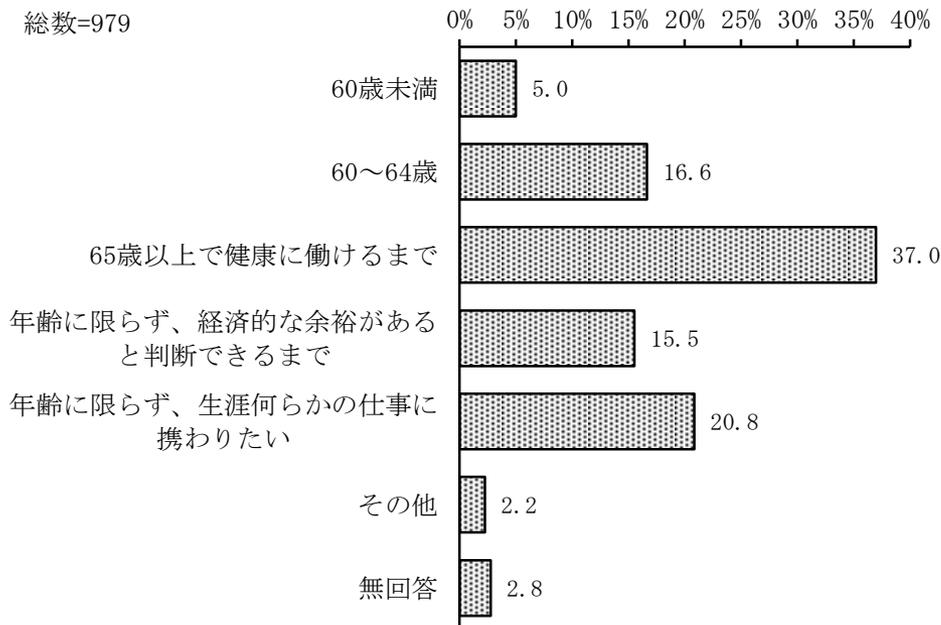
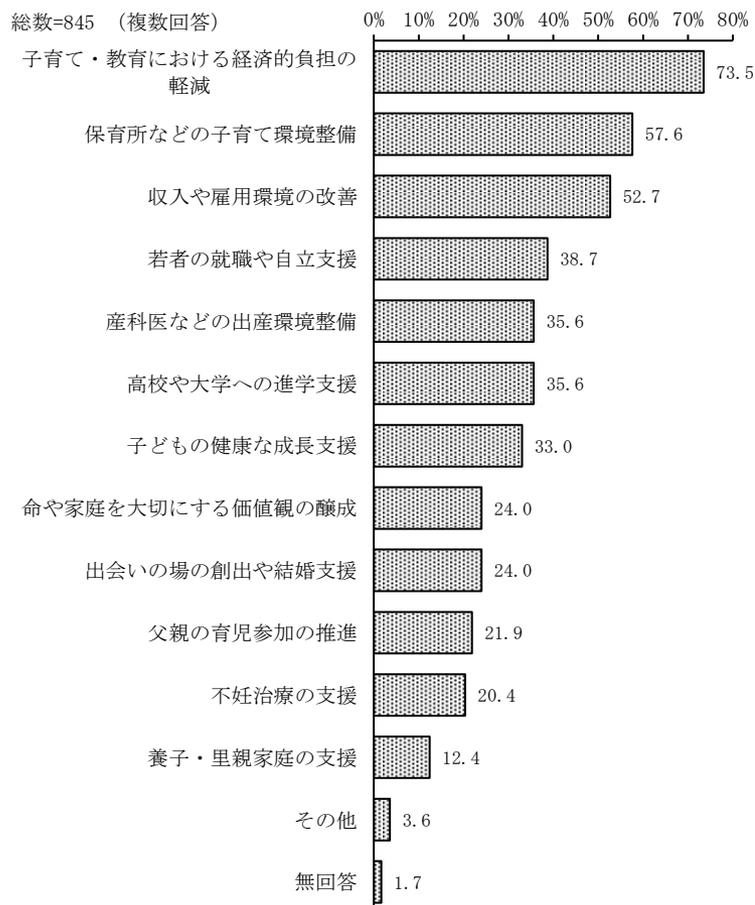
- 科学技術やグローバル化がもたらす未来像について、回答者の未来への不安度合い別にみると、「不安を感じる」「どちらかといえば不安を感じる」が選択した未来の技術は、「自動運転」や「衣服や家などによる病気の未然防止」、「自宅診療・医療」があり、これらの技術進歩が不安軽減につながる事が期待される。
- 回答者のうち、不安感が少ない方（「不安を感じない」「どちらかといえば不安を感じない」）が選択した未来の技術は、「現金を持たずに買い物ができる」「海外渡航者の増加」が挙げられている。



2. 市民アンケート（設問別集計結果）

⑤ 少子化対策に関して、特に期待する政策・働く年齢について（問3-5・3-6）

- 「子育て・教育における経済的負担の軽減」が73.5%、「保育所などの子育て環境整備」が57.6%、「産科医などの出産環境整備」が35.6%となり、子育てに関して社会のサポートを必要としていることが分かる。
- 「収入や雇用環境の改善」が52.7%、「若者の就職や自立支援」が38.7%となり、雇用や収入に関する項目に期待している方が多いことが分かる。
- 「65歳以上で健康に働けるまで」が37.0%、「年齢に限らず、生涯何らかの仕事に携わりたい」が20.8%となり、65歳以上でも働く意欲のある方が57.8%となり、過半数の方が定年後も働きたいと考えていることが分かる。

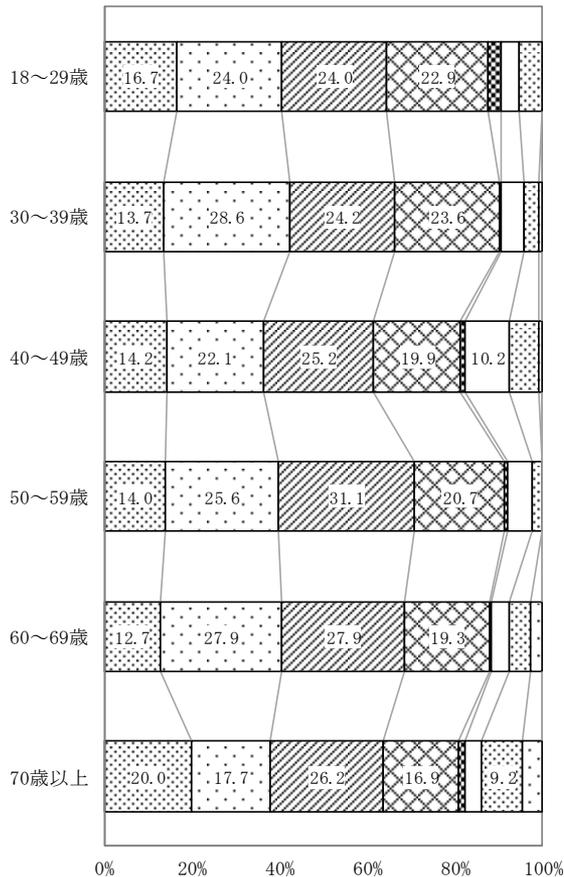


2. 市民アンケート（設問別集計結果）

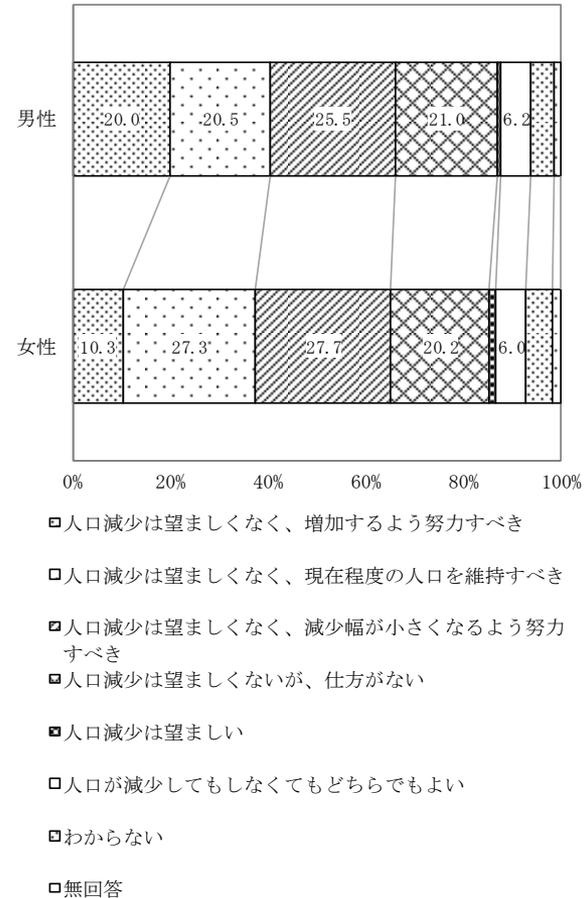
⑤人口減少に対する意識と少子化対策として期待する取り組み（問3-4・3-5）

- 全世代で望ましくないと感じた割合が高かったが、若年層では「人口減少は仕方がない」と回答する方が、他の世代に比べて比較的多くみられた。
- 人口減少に対する意識は、性別により相違がみられ、「人口減少は望ましくなく、増加するよう努力すべき」と回答した方は、男性が女性の2倍近くにのぼった一方、女性は、「人口減少は望ましくなく、現在程度の人口を維持すべき」との回答が、男性よりも多い結果となった。

* 年代別の人口減少に対する意識



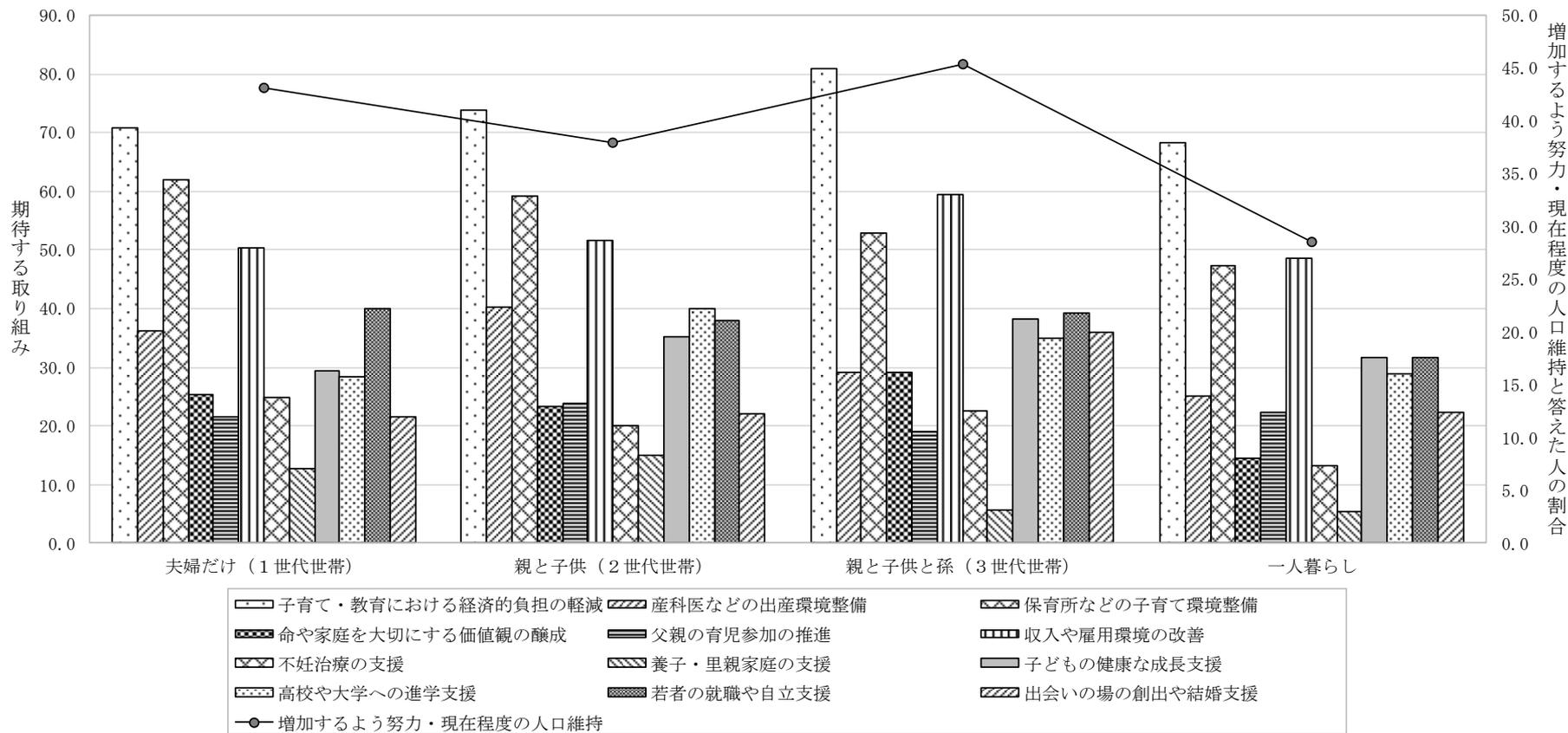
* 男女別の人口減少に対する意識



2. 市民アンケート（設問別集計結果）

⑤人口減少に対する意識と少子化対策として期待する取り組み（問3-4・3-5）

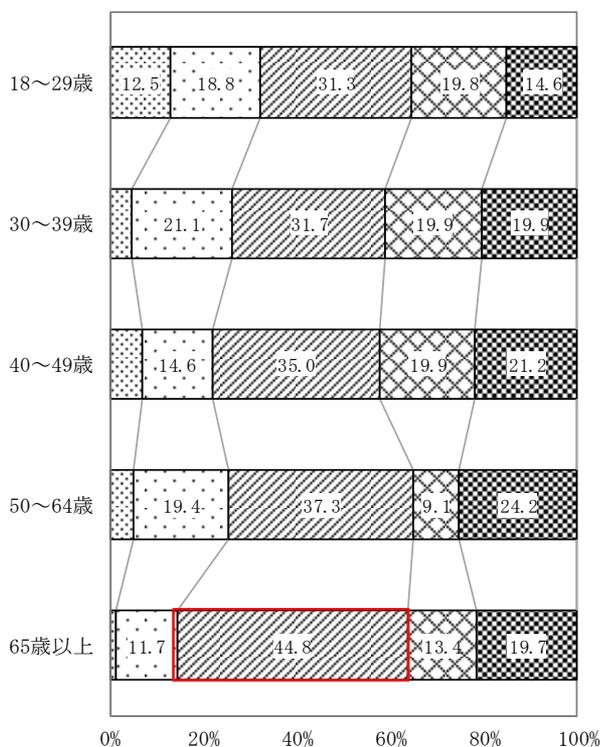
- 少子化対策として期待する取り組みについて家族構成別にみると、「夫婦だけ世帯」および「親と子供世帯」において「子育て・教育における経済的負担の軽減」「保育所など子育て環境整備」「収入・雇用環境改善」の順で挙げられ、経済的な支援と子育て環境の向上への期待が多く挙げられた。
- 一方、「一人暮らし世帯」では、「経済的負担の軽減」「収入・雇用環境改善」に次いで、「保育所など子育て環境整備」が挙げられており、経済的な支援が少子化対策に有効と期待する回答が強い。
- 「親と子どもと孫の3世代世帯」では、「子育て・教育における経済的負担の軽減」が他の家族構成に比べて突出して多く、経済的負担に関する取り組みへの期待が強いことが推察された。



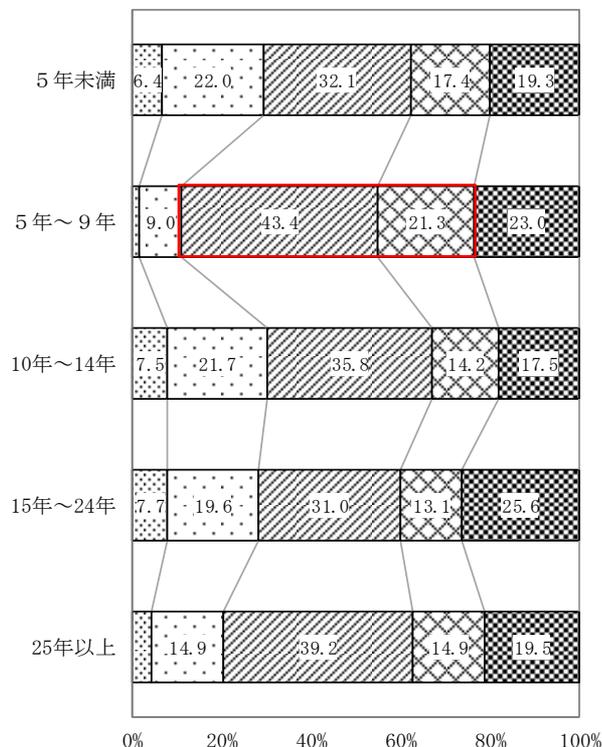
2. 市民アンケート（設問別集計結果）

⑥働く年齢（何歳まで働きたいか）（問3-6）

- 65歳以上の半数程度の方が「65歳以上で健康に働けるまで」と回答しており、高齢者でも働く意欲が強いことが分かる。
- 居住年数別では、25年以上居住している方の意欲が高い一方、居住年数が「5年～9年」といった回答者においても働く意欲が強い。居住年数が「5年～9年」の方々は、TX沿線の開発により、新たに転入してきた方々も多く含まれていると想定され、働く意欲が強いことが推察される。



- 60歳未満
- 60～64歳
- 65歳以上で健康に働けるまで
- 年齢に限らず、経済的な余裕があると判断できるまで
- 年齢に限らず、生涯何らかの仕事に携わりたい



- 60歳未満
- 60～64歳
- 65歳以上で健康に働けるまで
- 年齢に限らず、経済的な余裕があると判断できるまで
- 年齢に限らず、生涯何らかの仕事に携わりたい

2. 市民アンケート（設問別集計結果）

⑦つくば市の未来についてのご意見（問3-7）

「つくば市の未来」に関する意見（記載のあった約330件、その他を含む）を分類（12類型）し主な内容を整理

意見として多かった3項目：「生活環境の改善」「施設建替・整備」「公共交通・移動手段」

生活環境の改善（約50件）

治安対策など安心・安全な環境
上水道整備
外の市を参考に活気づくりが必要
外国人の生活ルールの確立
コミュニティの強化など地域がつながる工夫
空家・空室への対策
災害に強いまちづくり
商店街
ゴミ捨て場の整備

施設の建替・整備（約50件）

道路や歩道の整備
自転車通行環境の向上
商業施設・デパートの立地
緑あふれる公園・大人も子供も遊べる公園
市立図書館（中央図書館が不便）
総合病院の整備
観光地が少ない
スタジアムなどの整備
交流センターなどの老朽化への対応
街全体のバランスを見通した施設配置

公共交通や移動手段の確保（約40件）

移動手段の確保
自動車が無くて暮らせることが必要
公共交通の便数や頻度の増加
バス停などの乗り場の充実

分野別のニーズ・意見

仕事・雇用の場の創出（約20件）

企業誘致
外国人労働者との共生
人材育成

高齢化や老後の生活への対応（約20件）

健康長寿の取り組み
定年後の社会との関わり

子ども・子育て環境の充実（約20件）

次世代に誇れるまち
不妊治療、子育て支援
住居系以外の活用（学校）

教育環境の向上（約10件）

高校が不足している

自然環境の保全（約10件）

自然環境の維持・保持
田畑など自然的土地利用の維持
森林の保全

地域別（中心・周辺部）への意見

駅周辺の衰退への対応（約40件）

衰退
文化・スポーツ面での集客
活気・にぎわい
跡地活用
研学への集中

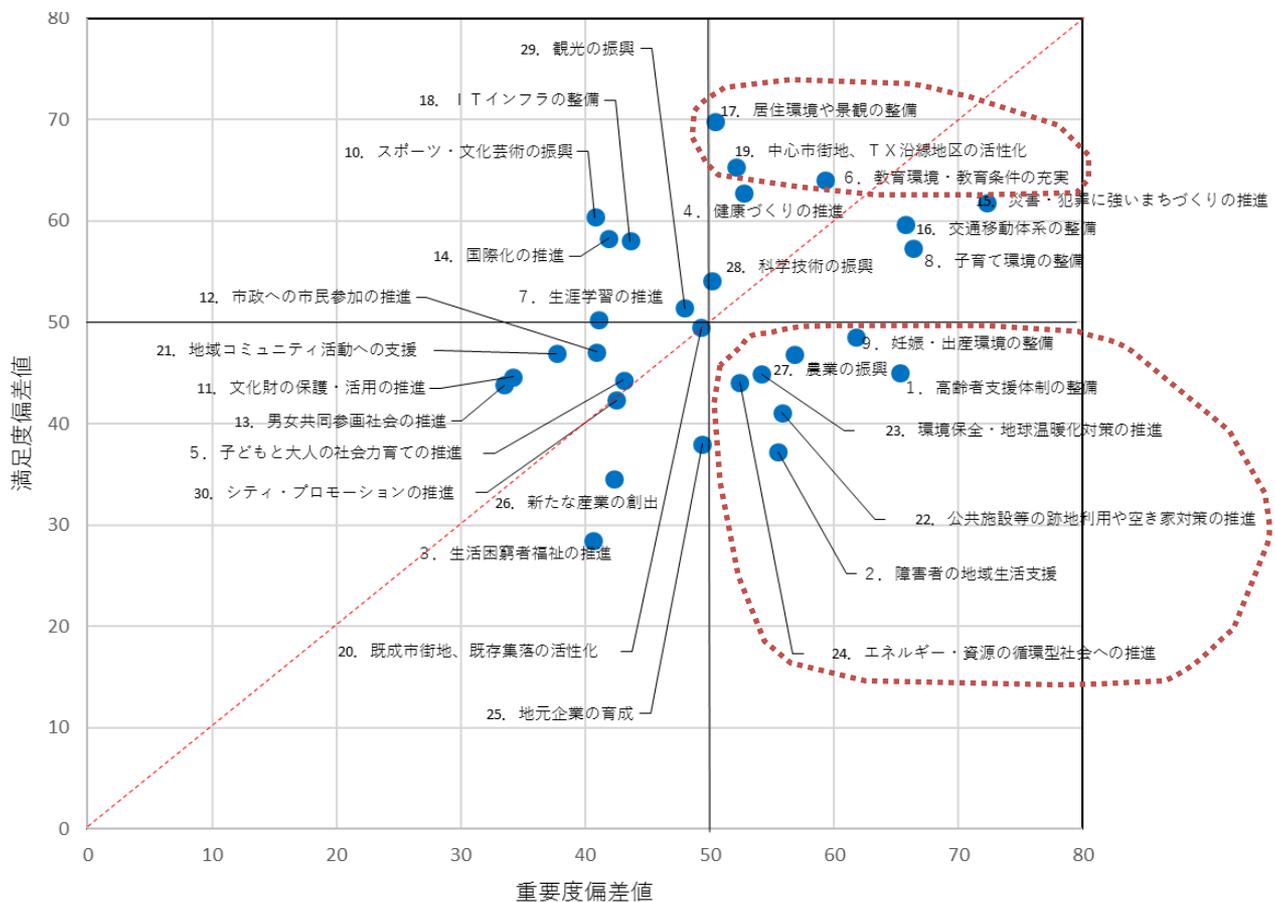
周辺部の過疎化・格差への対応（約20件）

人口減、人口年齢構造
商店街
地域差、格差拡大

3. 市民アンケート（重要度・満足度）

⑧ 今後力を入れるべき取り組み（問4）

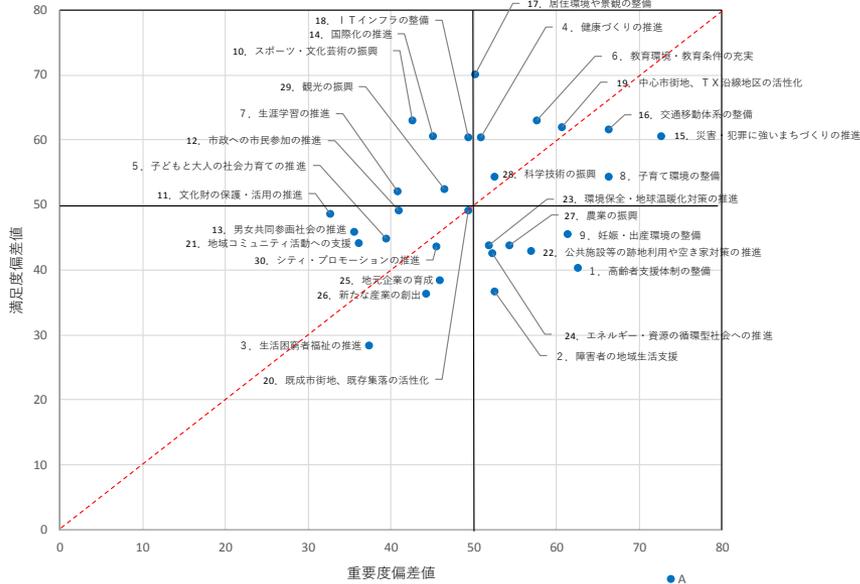
- 今後、力を入れるべき取り組みとして、重要度は高いが満足度の低い取り組みとして、「高齢者支援体制」「妊娠・出産環境」「農業振興」「公共施設等の跡地活用や空家対策」「障害者の地域生活支援」「環境保全・地球温暖化対策の推進」「資源循環型社会の推進」がある。
- 重要度も満足度も高い取り組みは、「居住環境」「教育」「中心市街地・TX沿線の活性化」の3つの取り組みの満足度が特に高く、つくば市の強みといえる。



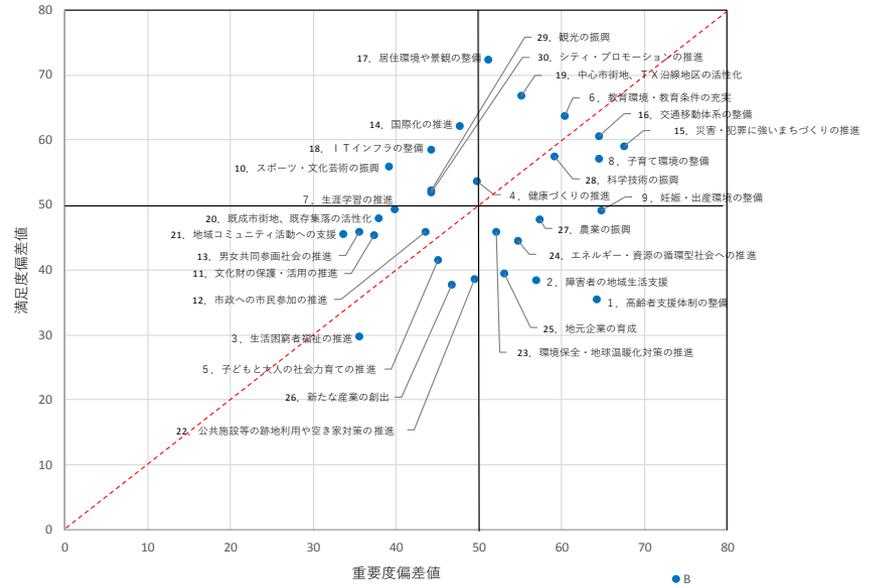
※重要度・満足度の回答を各取り組み毎に偏差値として算出

⑧ 今後力を入れるべき取り組み（問4）

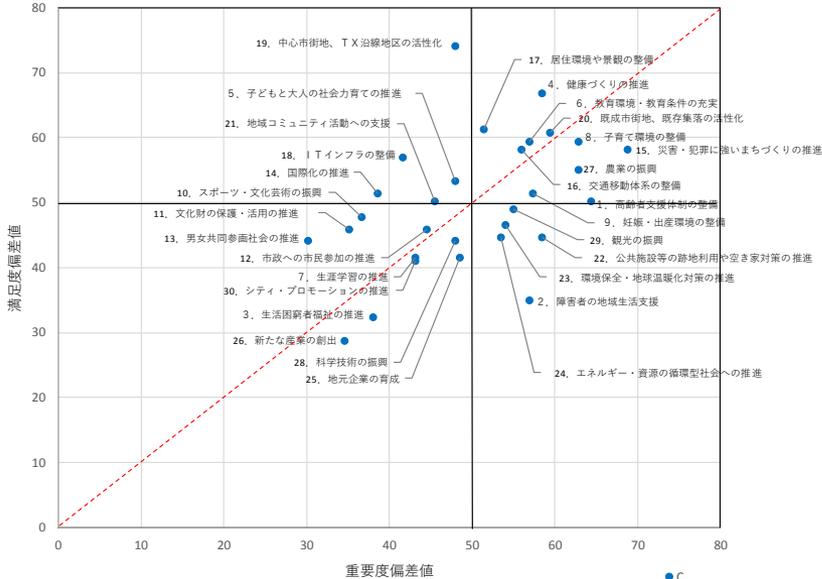
研究学園地区



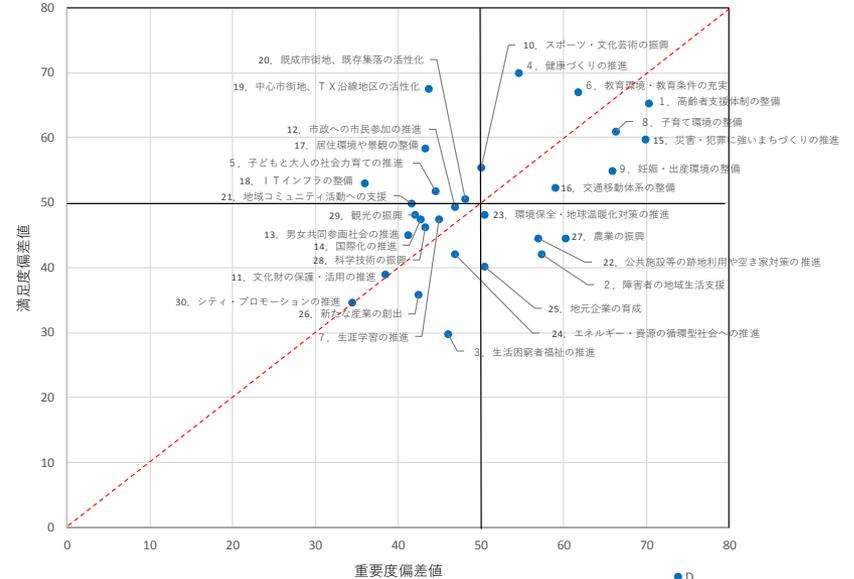
TX沿線地区



大穂地区

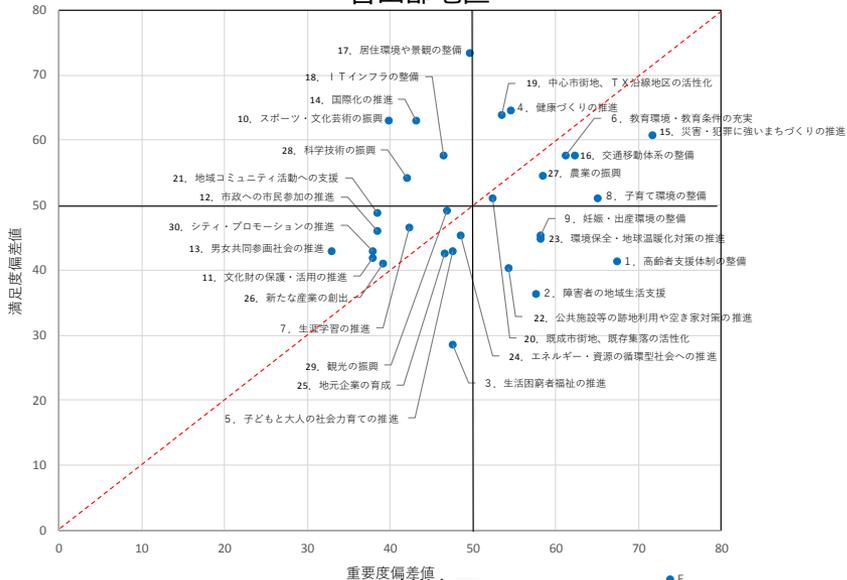


豊里地区

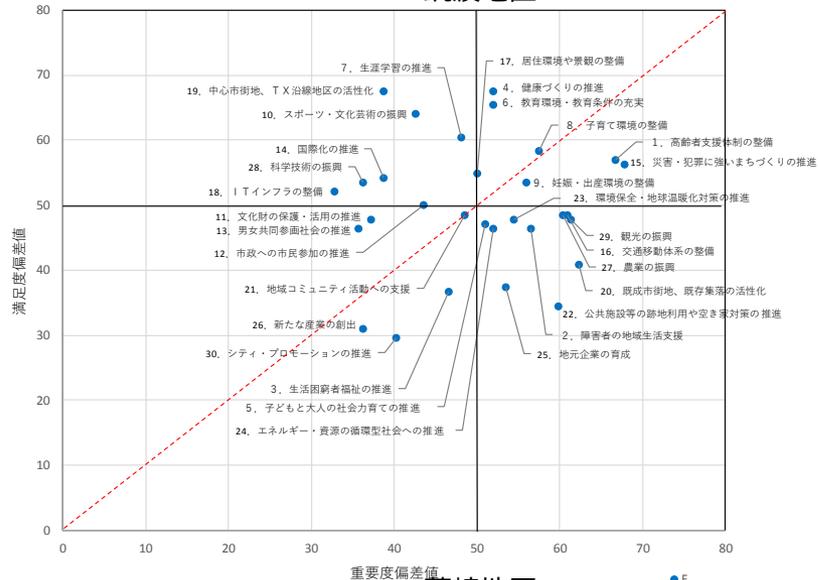


⑧ 今後力を入れるべき取り組み（問4）

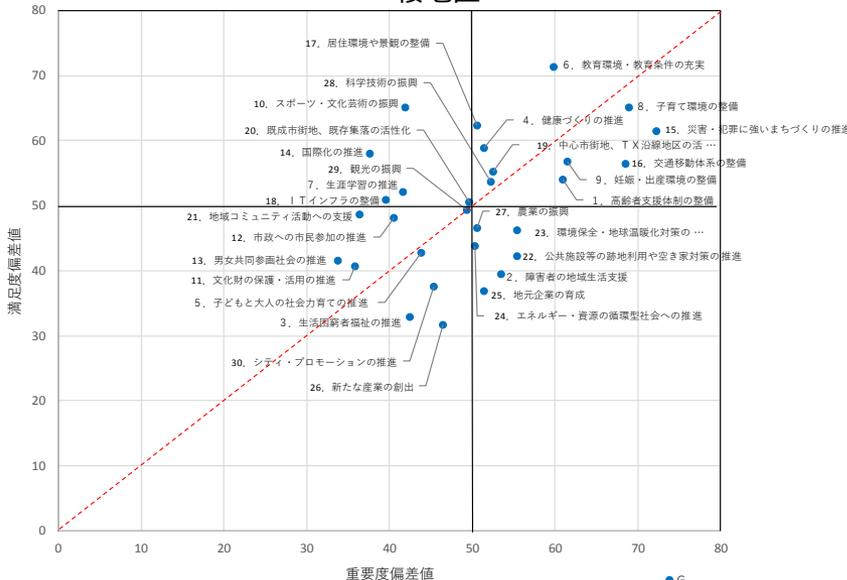
谷田部地区



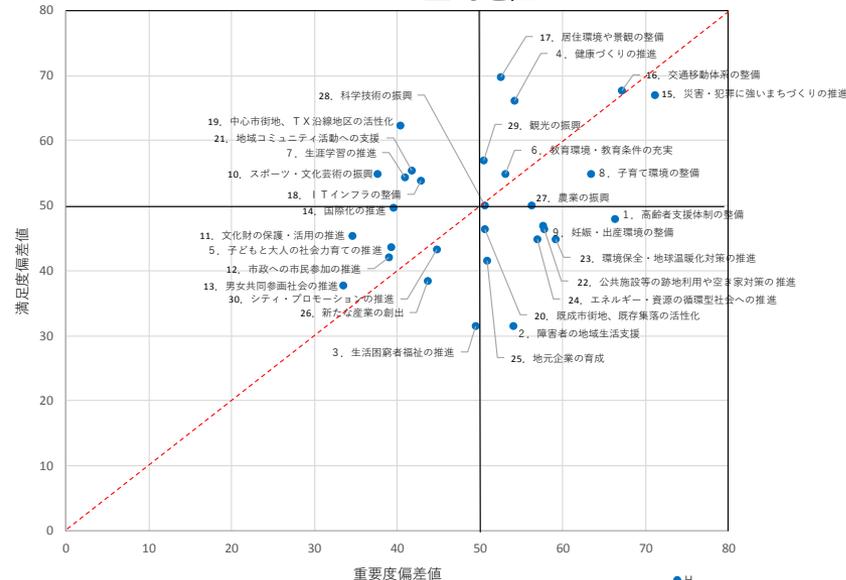
筑波地区



桜地区



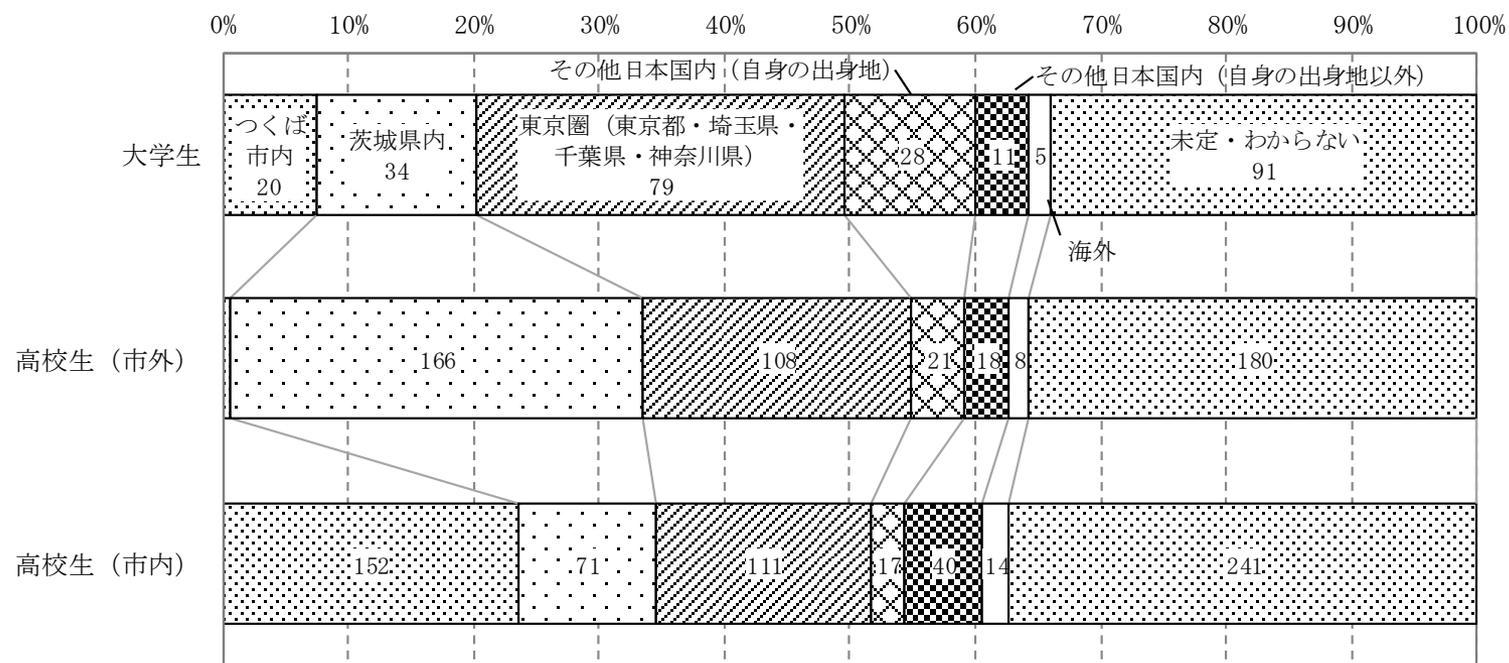
荃崎地区



4. 学生間比較アンケート

① 卒業後に住む予定の場所（大学生・高校生比較）

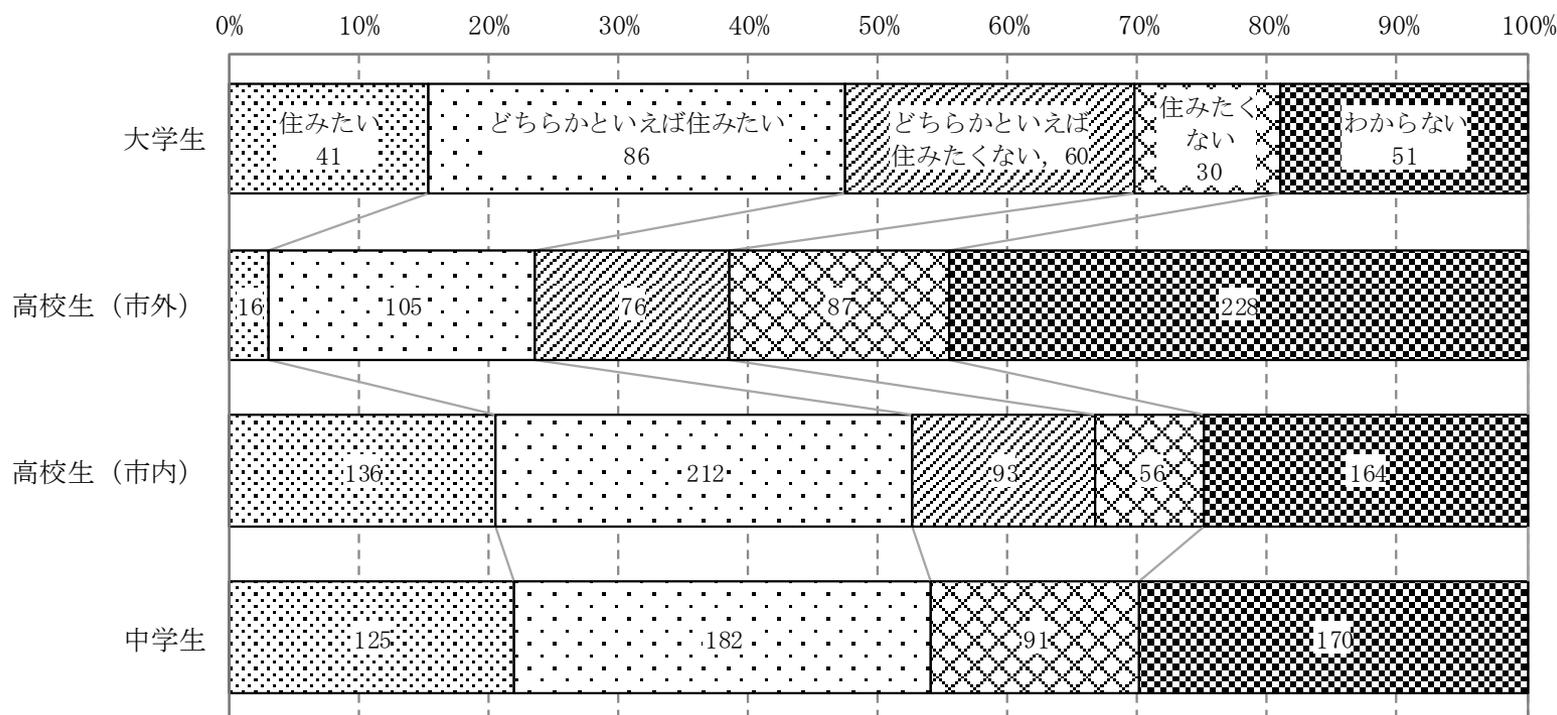
- 卒業後に住む予定の場所として、つくば市を選んだ方は、市内在住の高校生が最も多く、次いで、大学生となっている。
- 大学生、高校生共に全回答者の3割を超える方が、卒業後に住む場所は未定としており、市内に就業の場が確保されることで、市内在住者を増やすことが期待できる。



4. 学生間比較アンケート

②つくば市に住み続けることへの意向（中学・高校・大学）

- つくば市に住み続けることに対する意向では、大学生は半数近くが「住みたい」「どちらかといえば住みたい」と答えているものの、市内在住の高校生を若干下回る結果となった。大学生は、回答者の出身地が多様であり、必ずしも、つくば市に昔から住んでいたわけではないことから、定住につながることを期待される。
- 市外在住の高校生であっても、2割程度の方は、「住みたい」「どちらかといえば住みたい」と答えている。
- 中学生については、3割程度の方が「わからない」を選択しており、現時点で定住意向が明確になっていないことがうかがえる。



4. 学生間比較アンケート

③つくば市の未来像（中学・高校・大学）

- つくば市の未来については、大学生の約7割程度が「明るい」「どちらかといえば明るい」としており、高校生を上回り、つくば市の未来に期待していることがうかがえる。
- 高校生では、市外在住者よりも市内在住者の方が、「明るい」「どちらかといえば明るい」と回答した方が多い。
- 「明るい」と答えた方は、中学生、高校生、大学生の順に多いが、成長とともに、地域の将来を楽観視しなくなっている傾向にあることが推察され、その要因等を分析することが重要である。

